プレーオフでの決着　椿台春秋

ゴルフにおけるプレーオフとは、規定ラウンド数終了時に首位に複数のプレーヤーがいた場合に行われる優勝決定戦のことである。多くの場合はスコアに差がついた時点で終わるサドンデス方式が採用されている。文字通り突然死を意味し、なんだか残酷な気もする▼２０２６年９月２０日に開かれたシニア選手権は２人によるプレーオフに突入した。１ホール目に２オンを果たしたプレーヤーがバーディーを決め、初優勝を飾った。はずしても不思議ではない距離のあるパットだったが見事にカップに吸い込まれた。その瞬間、勝者、敗者、プレーを見守っていた関係者を含めて誰もが信じられないといった表情を浮かべ、グリーン上、グリーン周りは静寂に包まれ、次の瞬間に大きな拍手が沸き上がった▼この日は女子プロのツアー最終日がテレビ放送されていたが、この試合もプレーオフでの決着だった。１ホール目で一人の選手が２打目を池ポチャし、苦杯をなめた。通常では考えられないショットではなかったかと思う。プレーオフには魔物が住んでいるようである▼「プレーオフは運。本当に強ければその前に決めなければならない」とシニア選手権の参加者が口にしていた。その通りであろう。しかし、偶然のいたずらもある。思うがままにいかないのがゴルフである▼このことは私たちが生きていくうえでも同様ではないだろうか。成功と失敗、栄光と挫折、喜びと失意―。そんなことを繰り返し日々過ごしているのである。ロックシンガーの浜田省吾さんは「日はまた昇る」の中でこんなふうに歌っている。「どの道を歩いて行こと君は君のその人生を受け入れて楽しむほかない、最後には笑えるように」。そうこれまでゴルフをしてきて良かった、さらには生きてきた良かったと振り返られるような人生を送りたい。